

平成 28 年度重点施策の達成状況評価

1 基本施策 1：市民活動の裾野の拡大

1-1. 市民活動のきっかけづくり

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

改定計画において、魅力発信による参加につなげる仕掛けを新たな方向性として位置付けているが、魅力発信の事業が少ないことから、今後、地域で市民活動に取り組んでいる人や団体の更なる魅力発信を行っていく必要がある。

また、様々な分野で、それぞれ市民活動のきっかけづくりにつながる事業を行っているので、市民のライフステージに沿った一体的な情報提供の手法も検討していきたい。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

市民活動のきっかけづくりとして、市民活動に関する学びの機会の提供は、概ね行われているが、実際に参加を促すための活動が弱い。今後については、講座等の学びの機会を引き続き提供するとともに、実際の活動に参加していただけるよう橋渡しをする仕組みの構築などが必要である。

2 基本施策 2：市民活動の促進と自律・自立に向けた支援の充実

2-4. 市民活動に関する学びの機会の提供

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

武蔵野プレイスを中心に、市民活動団体の運営支援として、様々な講座を行っているが、今後は、対象とする活動ステージを絞った形での学びの機会の提供を検討していく必要がある。

また、各分野の地域課題を体系的に学ぶスキームの構築を検討していきたい。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

自治体や地域に関する様々な問題を学ぶ講座が少ない。また、分野単体での学びの機会はあるが、地域課題を体系的に学ぶための機会がない。市民活動のノウハウを学ぶとともに、地域の課題について学ぶことにより、地域での活動につなげてもらうことが重要である。また、教養講座での学習を市民活動につなげるための仕掛けや、将来の市民活動の推進のため、中高生への意識付けも重要である。

2-6. コーディネート機能の強化

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する実施主体による自己評価

市、武蔵野プレイス、市民社協が、一体的にコーディネート機能を発揮することにより、様々な分野や課題に応じた対応をしていくため、連携を強化していく必要がある。

合わせて、コミュニティ協議会とも連携していくことにより、地域としてコーディネートしていく体制づくりを進めていく必要がある。

★目標の達成状況及び事業の実施状況に対する市民活動推進委員会による評価及び意見

市、武蔵野プレイス、市民社協の中間支援組織としての機能を強化していくとともに、NPOとしての中間支援組織の確立も今後の課題である。また、コミュニティ協議会における中間支援的役割にも期待したい。